

1 事業名 平成30年度教育事業 「体験の風をおこそう」運動協賛事業  
「雪遊び in テンパーク～雪合戦練習会～」

2 趣 旨

雪合戦の体験や雪遊びの交流活動をととして、コミュニケーション能力の向上と自然に親しむ心を育む機会とする。

3 期 日 平成31年2月16日（土）～2月17日（日）

4 参加者 岩手県内 児童・生徒77名、引率者17名 合計94名  
※参加人数の内訳

チーム名	児童・生徒	引率者	計
巢子スポーツ少年団	14名	6名	20名
雫石ドリームズ	7名	3名	10名
滝沢第二中学校	16名	1名	17名
遠野東中学校	20名	5名	25名
大船渡中学校	11名	1名	12名
赤崎中学校	9名	1名	10名
合計	77名	17名	94名

5 後援・協力 岩手県教育委員会 盛岡市教育委員会 滝沢市教育委員会  
八幡平市教育委員会 雫石町教育委員会 岩手県雪合戦連盟

6 内 容

(1) 日 程

【第1日目:2月15日(土)】

11:00	11:30	12:00	13:00	14:00	15:00	17:00	17:15	18:00	19:00	20:45	22:00	22:30
受付	開 会 式 & オ リ エ ン テ ー シ ョ ン	昼食	雪合戦 講義	チ ー ム 練 習	雪合戦練習会	休憩	夕 食	チ ー ム ミ ー テ ィ ン グ	交 流 会	入 浴	就 寝 準 備	

【第2日目:2月16日(日)】

6:30	7:00	7:15	8:30	9:00	12:30	13:30	14:00
清 洗 起 掃 面 床	朝 の 集 い	朝 食	退 所 点 検	雪合戦練習会	昼 食	ア ン ケ ー ト 閉 会 式 記 入	解 散

(2) 指導者

- ・作山秀一 氏 (岩手県雪合戦連盟理事長)
- ・名久井幸一 氏 (副審判長)
- ・塚田 守 氏 (副審判長)
- ・松坂英樹 氏 (審判員)
- ・上野克浩 氏 (競技副委員長)
- ・影山正典 氏 (審判員)
- ・田村正寛 氏 (審判員)
- ・小原一志 氏 (審判員)

### (3) 企画のポイント

雪合戦の体験や交流を通し、コミュニケーション能力の向上と自然に親しむ心を育む機会を提供することをねらいとして実施した。雪合戦講習会や試合の審判は、昨年度も協力を仰いだ、岩手県雪合戦連盟に行っていた。

今年度は、東日本大震災の被災地の子ども達にも体験を提供するために送迎バスを用意し、岩手県大船渡市から大船渡中学校と赤崎中学校の2校の参加が実現した。岩手県沿岸南部は積雪もなく、雪合戦は初めての体験であった。普段、接することの少ない雪に触れ、正式ルールのもとで雪合戦を楽しむことは、ワクワクする経験になると考えた。6チーム全てが野球チームであることから、雪合戦での対戦を通して交流し、野球シーズンに入っても野球で対戦できるように引率者への働きかけも行った。また、夜には小中それぞれに分かれての交流会を企画し、コミュニケーションを図れるようにした。

### (4) 広報のポイント

春に岩手山青少年交流の家の年間行事を掲載したイベントカレンダーを岩手県内の全小学生児童に配付した。このイベントカレンダーに雪合戦事業の情報も盛り込んだ。また、夏期に施設を利用している団体に雪合戦事業があることを広報した。また、県内の沿岸被災地域の中学校に参加を呼びかけた。

### (5) 運営のポイント

昨年度は、1日目に雪玉製造やルールを覚える試しの試合を行ったが、今年度は講習会后すぐにリーグ戦の練習会(試合)をはじめた。どのチームもたくさんの試合を経験し、雪合戦の魅力を堪能できるようにした。会場は、テニスコート内に2面の試合会場を用意した。テニスコートはフェンスに囲まれており、硬い雪玉が応援者にぶつかって怪我をしないようにした。

夕食後はチーム毎のミーティング会場を用意し、2日目に向けての作戦会議の時間を設けた。その後、交流会で他チームの参加者と身体を使った交流を通してコミュニケーションが図られるようにした。

夜には、ボランティアを含めたスタッフミーティングを設定し、共有すべき内容や懸念されるチームへの対応を出し合い、その対策を話し合う場とした。

事業全体を通して、チーム内で徹底して欲しい事柄はチーム代表者やキャプテンに口頭で伝えるようにした。

## 7 成果とその普及

岩手県内各地から集まったチームが、雪合戦と交流会を通してコミュニケーションを図り友情を育むことができた。各チームにおいては、作戦を考え皆で実行する活動は結束力を強くすることにも繋がっていた。当施設には、雪のない地域で体育館でもできる屋内用雪合戦用具もあることから、今後も雪国ならではの雪合戦を広めていきたい。

参加者からは、「すごく楽しかったし、時間を忘れるくらい夢中に取り組むことができたので良かったです。もっと試合ができれば良かったなと思いました。」「寒いと思っていましたが、熱くなって寒さも吹き飛びました。」「このような活動があることはあまり知られていませんので、他校にも声をかけて多くの沿岸の生徒に雪国体験をさせてみたいです。」「雪合戦の難しさと楽しさを知り、勝つために作戦を立てて協力する大切さを改めて感じた。」などの感想がたくさん寄せられた。

## 8 今後の課題

雪合戦の一番大変な作業は雪玉製造である。今回は、天候にも恵まれ予定した時間通りに進められたが、天候によっては雪が固まりにくいこともある。臨機応変に対応することが求められる。また今回は20分間に180個の雪玉を製造したが、チームサポートの大人が少ないチームは大変であった。児童・生徒だけでなく保護者の参加呼びかけも必要である。また、小学校が2チームのみとなり、同じチームでの対戦が続いた。もう少し多くのチームの参加を募ることが必要である。

さらに、一試合に最低6名の審判が必要になることから、その確保が課題である。



試合の様子



夜の交流会の様子



参加者全員